

実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度

松井聡子* 清水夏子* 永尾寛子** 笹山万紗代* 政時和美*

Behaviors of inspiring nurses which help nursing students to consider their clinical training facilities as the intended place of work

Satoko MATSUI Natsuko SIMIZU Hiroko NAGAO Masayo SASAYAMA Kazumi MASATOKI

Abstract

The aim of this study is to contribute to retention of new graduate nurses by clarifying nurses' behaviors which help nursing students to consider their clinical training facilities as the intended place of work upon graduation. Semi-structured interviews were conducted with 6 fourth year students of the Faculty of Nursing at A University who found employment in their clinical training facilities. As a result, behaviors of inspiring nurses were categorized into 7 categories: "Nurses' behaviors which serve as a model in nursing practice for students to emulate," "Nurses who work vigorously," "Nurses' behaviors that bring students and nurses closer," "Nurses who support students in their clinical learning," "Nurses who empower students," "Nurses' behaviors that infer friendly relationships among nurses," and "Nurses who provide caring support to new nurses." It is suggested that the results summarized as follow: Nurses who become the kind of person recognized as a role model for students; Support which enables students to receive a clinical training without stress; and Nurturing of new nurses in good relationships among colleagues in the clinical setting, may lead to retention of new graduate nurses, if students can notice them during clinical training.

Key words: Clinical training facility, Finding employment, Nurses, Behaviors

要 旨

看護学生（以下、学生）が実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の態度について明らかにし、新卒看護師の確保への示唆を得ることを目的に調査した。A大学看護学部4年生で臨地実習施設に就職が決まった学生6名に半構成的インタビューを行った。その結果、看護師の魅力的な態度として、『学生が手本としたい看護実践を行っている看護師の姿』、『看護師が生き生きと働いている姿』、『学生と看護師の距離が縮まるふるまい』、『学生の看護実践を支援する姿』、『学生をエンパワメントする姿勢』、『看護師間の良好な関係性が垣間見えるふるまい』、『看護師が新人看護師に寄り添って指導している姿』の7つカテゴリーが抽出された。これらより、学生が安心して実習できるような環境を作り、学生に看護の魅力を伝えたり、看護師が新人看護師を丁寧に育てている場面を見せたりすることが新人看護師確保の一助となると示唆された。

キーワード：実習施設、就職先選択、看護師、態度

*福岡県立大学看護学部
Faculty of Nursing, Fukuoka Prefectural University
**独立行政法人 地域医療機能推進機構九州病院 看護部
Japan Community Health care Organization

連絡先：〒825-8585 福岡県田川市伊田4395番地
福岡県立大学看護学部臨床看護学系
松井聡子
E-mail: matsui@fukuoka-pu.ac.jp

緒言

看護職員の人材確保は深刻な課題であり、各病院施設は例年苦慮している。一方で、将来、新人看護師となる看護学生（以下、学生）は実習先での体験をもとに実習施設を就職先を選ぶことが多いことが明らかとなっており¹⁾、臨地実習（以下、実習）は新人看護師確保のための重要な場といえる。実習と就職先選択に関する先行研究では、看護師の学生への対応や指導などによって得られた病院への好印象が就職先として考えようとする一要因となる²⁾、実習中の否定的な体験やイメージは、その病院・病棟を就職先の選択肢から除外する要因と成り得る³⁾という報告があり、実習での看護師の関わり、特に好印象を与えるような関わりが学生の就職先選択に影響を与えていると考えられた。しかし、看護師が具体的にどのような態度で学生に関わることが就職先選択に影響を及ぼしているか詳細にした研究は少ない。

そこで、実習施設の人材確保の一助となるような示唆を得るために、実際に実習施設を就職先として選択した学生を対象にインタビューを行い、就職先選択に影響を与える看護師の態度を明らかにすることとした。

用語の操作的定義

1. 看護師の態度

「実習中に看護師が学生や患者、同僚等に対して感じたり考えたりしたことが、言葉・表情・動作などにあらわれたもので、直接的な関わりだけでなく客観的に感じたことも含む」と定義する。

方法

1. 研究デザイン

半構成的インタビュー

2. 研究対象

A大学看護学部4年生ですべての実習を終了し臨地実習施設に就職が決まった学生6名

3. 調査期間

平成29年3月

4. 調査方法

インタビューガイドを用いた半構成的面接法で個室にて1名につき1時間程度行った。

インタビュー内容は、以下のとおりである。なお、①に関しては、就職の決定因子を明らかにするために質問項目に加えた。

- ① 実習施設を就職先に決定した理由
- ② 実習中の看護師の態度が就職先選択に影響を及ぼしたか
- ③ ②が当てはまる場合は、就職を意識するきっかけとなった看護師の態度

5. 分析方法

内容分析を参考に、次のような手順でデータを分析した。

収集したデータを熟読し、「就職を意識するきっかけとなった看護師の態度」と解釈できる記録単位で切片化し、それをコード化した。さらに類似するコードを集め意味内容の類似点でサブカテゴリー、カテゴリーと抽象化した。生成段階で共同研究者間にて検討を重ね客観性や信頼性を高めた。

6. 倫理的配慮

研究を行うにあたり、Collaborate International Training Initiative (CITI) の「研究者基本コース」を修了した。研究協力者は成績判定終了後に公募し、研究の概要、研究目的・方法、研究に伴う利益・不利益、インタビューは個室でプライバシーが保てる場所で行うこと、インタビュー中に苦痛を生じた場合すぐに中止できることを文書と口頭で説明し、文書で同意を得た上で、実習成績、就職後の仕事に関与しない者が行った。インタビュー内容は研究協力者の同意のもと録音し、ロックを掛け電子媒体に保存した上で研究責任者の研究室の鍵付きの棚に保管し、研究終了後10年間保管したのちに電子媒体内のデータを消去すること、紙媒体はシュレッダーで裁断し破棄すること、研究結果は関連する学会等で公表する予定であること等についても文書と口頭で説明し、文書で同意を得た。なお本調査は、研究者が所存している大学の研究倫理委員会の承認とA大学看護学部長の許可を得た上で実施した。

結果

1. 対象者の概要

本研究の分析対象となった学生は6名で、女性5名、男性1名であった。調査時の年齢は平均22.2歳で、社会人枠入学の学生はいなかった。

2. 面接時間

面接時間（平均±SD）は、32～68分（49.3±13.6分）であった。

3. 実習施設を就職先として選択した理由

学生が実習施設を就職先として選択した理由は、

表1 就職先選択理由

学生	就職先選択理由
A	診療科が希望に合致している
B	病床数(300~400床)が希望に合致している、全国に系列病院があり移動が可能である
C	病床数(700床以上)が希望に合致している、全国に系列病院があり異動が可能である、教育制度が充実している、合同説明会での対応が良かった、先輩が就職している、勤務体制が希望と合致している
D	実習施設である、寮費が安価である、利便性がよい、診療科が希望と合致している、先輩、友人が就職している、食堂がある、将来出身大学の学生を指導することができる
E	教員の紹介
F	実習施設である、自宅から通える距離である、給与額が希望と合致している、公務員である

「診療科、病床数が希望に合致している」、「教育制度が充実している」、「実習施設である」、「全国に系列病院があり移動が可能である」などであった(表1)。

4. 実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の態度

分析の結果、91のコードから32サブカテゴリ、7カテゴリが抽出された(表2)。

カテゴリを【 】, サブカテゴリを〈 〉で示す。

以下、カテゴリごとに述べる。

【学生が手本としたい看護実践をしている看護師の姿】

このカテゴリは、〈患者の状況に応じた声かけをしている姿〉〈患者が笑顔になるような会話を実践している姿〉〈患者の気持ちを引き出すようなかわり〉〈患者にふさわしい言葉づかいで会話している姿〉〈誰に対しても分け隔てなく丁寧に接する姿〉〈看護師の決められた業務に限らず率先して働く姿〉の7つのサブカテゴリから構成されていた。

【看護師が生き生きと働いている姿】

このカテゴリは、〈看護師が楽しそうに働いている姿〉〈看護師が仕事の楽しさ・やりがいを語る姿〉の2つのサブカテゴリから構成されていた。

【看護師間の良好な関係性が垣間見えるふるまい】

このカテゴリは、〈看護師同士の良い雰囲気〉〈看護師間でコミュニケーションが取れている様子〉〈看護師同士が助け合う姿〉〈看護師同士の仲が良さそうな雰囲気〉〈先輩後輩関係が良さそうな雰囲気〉〈同僚のプライベートを語る姿〉の6つのサブカテゴリから構成されていた。

【学生の看護実践を支援する姿】

このカテゴリは、〈学生に熱心に向き合う姿〉〈学生が不足していることに叱りつつも教えてくれる姿〉〈学生が納得できるように指導してくれる姿〉〈学生の実践を後押しするふるまい〉〈患者に対するコミュニケーションスキルについてのアドバイス〉の5つのサブカテゴリから構成されていた。

【学生をエンパワメントする姿勢】

このカテゴリは、〈落ち込んでいた時の看護師からの声かけ〉〈学生の看護を肯定的に評価するふるまい〉〈学生の就職相談にのる姿〉の3つのサブカテゴリから構成されていた。

【学生と看護師の距離が縮まるふるまい】

このカテゴリは、〈学生のことを気にかけている様子〉〈看護師から学生への声かけ〉〈学生に興味・関心を持ってかかわる姿〉〈看護師が学生に優しく接する姿〉〈質問に対し丁寧に答えてくれる姿〉〈学生から話しかけやすい雰囲気〉〈学生に丁寧に対応してくれる姿〉〈学生の存在を邪険にしない様子〉の8つのサブカテゴリから構成されていた。

【看護師が新人看護師に寄り添って指導している姿】

このカテゴリは、〈新人看護師に丁寧な指導を行っている姿〉〈新人看護師の考えを汲む姿〉の2つのサブカテゴリから構成されていた。

考 察

1. 実習施設を就職先として選択した理由

学生が実習施設を就職先として選択した理由は、「診療科、病床数が希望に合致している」、「教育制度が充実している」、「実習施設である」、「全国に系列病院があり異動が可能である」など、先行研究結果⁴⁾と同様であった。「将来出身大学の学生を指導す

表2 実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の態度

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
学生が手本としたい 看護を実践している 看護師の姿	患者の状況に応じた声かけを している姿	タイミングをみて患者の部屋を訪室していた 患者に合った声掛けをしていた 看護師から患者に話かけている姿
	患者が笑顔になるような会話を している姿	(看護師と話した後に) 患者が笑顔になっていた (看護師と話した後に) 患者が明るくなり心の何かが取れたような様子であつた
	患者の気持ちを引き出すような かかわり	(患者とのミーティングの際に) 患者に安心感を与えるような声かけをしていた
		(患者とのミーティングの際に) 患者の気持ちを読みファシリテートしていた
		患者が話しやすい雰囲気を作っている姿
		患者の話をよく聞き言葉を上手く引き出している姿
	患者にふさわしい言葉づかいで 会話している姿	患者が感情表現できるよう関わる姿 わずかな看護師しか(患者と)なれなれしい友達言葉で話していなかった (患者と)対等な立場での会話をしていた
	誰に対しても分け隔てなく 丁寧に接する姿	指導者はスタッフナースにも柔らかな物腰で対応をしていた 指導者が誰に対しても優しい話し方であった 看護師の対応が患者と学生とで違いがなかった
	看護師の決められた業務に 限らず率先して働く姿	看護師の決められた業務に限らずフットワークよく働く姿 職種ごとの業務内容に限らず率先して働いている看護師の姿 気づいた仕事を率先して行っていた
	看護師が生き生きと 働いている姿	看護師が楽しそうに 働いている姿
看護師が仕事の楽しさ・ やりがいを語る姿		(指導者が) 現在働いている病院が一番楽しいと語ってくれた 看護師が働いている病院はやりがいがあると話してくれた 看護師同士の雰囲気がよかった
看護師間の良好な関係性 が垣間見えるふるまい	看護師同士の良い雰囲気	看護師同士が張り詰めた空気感がなく居心地が良かった オベ室部署内の雰囲気がよかった
	看護師間でコミュニケーション が取れている様子	看護師同士の会話が多かつた 看護師同士のコミュニケーションがよくとれていた
	看護師同士が助け合う姿	看護師がお互いをフォローし合う声掛けをしていた 看護師同士が楽しそうな感じだった
	看護師同士の仲が良さそうな 雰囲気	仕事中のスタッフが仲が良さそうだった 看護師皆で話しており仲が良かった 人間関係が良いと言われた
	先輩後輩関係が良さそうな 雰囲気	先輩後輩の上下関係を感じさせない話しやすそうな雰囲気があつた
	同僚のプライベートを語る姿	看護師が仕事の内容以外のことも話していた
		指導者より同じ部署内の同僚看護師とばかりプライベートをすごしていると聞いた
	学生に熱心に向き合う姿	指導者が同僚の人柄等を話してくれた
		学生への指導が丁寧であつた
		指導者が熱心に関わってくれる姿
学生が不足していることに対し 叱りつつも教えてくれる姿	スタッフナースも学生に指摘してくれたり聞いてくれたりした	
	指導者が学生の知識が不足していた時に怒りつつもきちんと教えてくれた	
	指導者に技術は習得して理解してやらなければいけないとびしっと言われた	
学生の看護実践を 支援する姿	学生が納得できるように 指導してくれる姿	(看護技術が出来ていないことに対して) 指摘されたが納得する理由を説明された 「一緒に行こう」というような声をかけてくれた
	学生の実践を後押しする ふるまい	報告に対して一緒に確認をしてくれた
		提案したことに対して後押ししてしてくれた
		見学についていいか迷っているときに「行くよ」と言ってくれた 学生が実践するときは応援してくれた

		指導者から見学や実践を誘ってくれる
		指導者がある日に経験できるケアを示し、希望を確認してくれた
		学生が希望するケアに入られるよう一緒に計画してくれ、実施できるよう支援してくれた
		学生が立てた行動計画に対してアドバイスがもらえた
	患者に対するコミュニケーションスキルについてのアドバイス	看護技術に気を取られていたとき患者の声のトーンも考えるよう指導をしてくれた 看護技術に気を取られていたとき自分自身の表情についても考えるよう指導をしてくれた 指導者が（患者に話しかけるときの）声のトーンについてアドバイスしてくれた
学生をエンパワメントする姿勢	落ち込んでいた時の看護師からの声をかけ	看護技術が上手く出来ず落ち込んでいた時に指導者が声をかけてくれた 学生が上手くいっていないときに大丈夫か声をかけてくれた
	学生の看護を肯定的に評価するふるまい	自分の看護に対しスタッフ看護師も評価してくれ看護の楽しさを見つけた 実習では上手くいかないことにし期間の短さを理解してくれ、それなら就職すればいいと声をかけてくれた 言い方がきつい看護師もいたが実習後にきちんと褒めてくれた
	学生の就職にのる姿	看護師が（病院やオベ室を）良いよと薦めてくれた 学生が希望する科に就職したい理由を聞いてくれた 就職を希望する科についてのアドバイスをしてくれた
	学生のことを気にかけている様子	スタッフナースも学生に声をかけてくれた （見学時に）声をかけてくれ学生のことを見てくれていると感じた きつい実習の中でもきちんと見てくれていると感じた （師長さんなど）が忙しい合間に様子を見に来てくれた 学生のことを気にかけてくれた
学生と看護師の距離が縮まるふるまい	看護師から学生への声かけ	看護師が学生を気にかけて声をかけてくれた 学生から声をかけられない場面とき、看護師から学生に声をかけてくれた オベ室看護師は質問があるか（看護師の方から）聞きに来てくれた 学生に興味を持ってくれているのが伝わる姿勢
	学生に興味・関心を持ってかわる姿	学生の気持ちに寄り添ってくれた 学生が話したことに質問をしてくれた 看護師が（学生が話したことにし）共感してくれた
	看護師が学生に優しく接する姿	指導者が学生に対して優しい話し方であった 卒業生でもある看護師が学生に優しくしてくれた 看護師が学生に優しくしてくれた
	質問に対し丁寧に答えてくれる姿	スタッフナースが質問したことにきちんと答えてくれた 質問するととても丁寧に説明してくれた
	学生から話しかけやすい雰囲気	看護師が話しやすかった 指導者が声をかけてくれて質問しやすい雰囲気を作ってくれた オベ室看護師は仕事の合間に質問できる時間を作ってくれた
	学生に丁寧に対応してくれる姿	看護師全員が優しいわけではないがきちんと対応してくれた オベ室看護師は見学時に学生の立ち位置を指示してくれた 質問に対応できない時は適宜メモをとるように指示してくれた
	学生の存在を邪魔にしない様子	（看護師が）学生を邪魔扱いする感じがなかった
	新人看護師に丁寧な指導を行っている姿	卒業生でもある看護師が指導を受けている様子を見た時威圧感がなくきちんと指導を受けている雰囲気だった 新人看護師に対し怒るだけではないきちんとした指導がされていた 新人看護師の指導に際して実践だけでなく後の確認も行われていた
新人看護師の考えを汲む姿	ミーティングの時新人看護師が発言しやすいような雰囲気だった ミーティングの時新人看護師の意見を取り入れて話題が発展していた （看護師が）新人看護師の考えを褒めるような声掛けをしていた	

ることができる」は新たな知見であり、実習先の施設でしか叶えられない理由であった。選択理由の大部分は、労働条件や身分の保障を基準に就職先を選

択していたが、「全国に系列病院があり異動が可能である」、「将来出身大学の学生を指導することができる」では、将来の変化に着目しており職業の継続を

意識して就職先を決定していることが予測された。

2. 就職先選択に影響を与える4つの看護師の態度

結果より、看護、職場環境、学生、新人看護師に対する実習中の看護師の態度が就職先選択に影響していると考えられた。それぞれに沿って以下に述べる。

(1) 看護に対する看護師の態度

先行研究でモデル的看護職の存在が就職先選択に影響していることが示されているように⁵⁾、本調査でも【学生が手本としたい看護実践をしている看護師の姿】が影響していた。その中でも学生は、〈患者の状況に応じた声かけをしている姿〉、〈患者が笑顔になるような会話を実践している姿〉など、看護師と患者のコミュニケーション場面での看護師の態度に注目していた。学生が手本にしたい看護師の態度は様々であるが、患者とのコミュニケーション場面での看護師の態度が学生には好ましい看護として印象に残ったと考える。また〈患者にふさわしい言葉づかいで会話している姿〉、〈誰に対しても分け隔てなく丁寧に接する姿〉など、患者だけではなく、職場の同僚らと誠実に向き合う態度を重要視して就職先を選択していた。新人看護師が就業を継続できた理由に、先輩看護師への尊敬の気持ちが関係しているという報告があり⁶⁾、今回の調査結果でも職業の継続を意識して就職先を選択している学生がいたことから、尊敬できる先輩がいるということは大事な要素だと推察できる。以上から、【学生が手本としたい看護実践をしている看護師の姿】が影響したと考えられた。

(2) 職場環境に対する看護師の態度

学生の中には、看護系大学への進学志望動機が他者の勧め⁷⁾で、看護師としての適性を不安に感じている学生もいる⁸⁾。実習中に〈看護師が楽しそうに働いている姿〉や〈看護師が仕事の楽しさ・やりがいを語る姿〉を学生に示すことは、将来への不安を和らげ、やりがいや期待感を芽生えさせた可能性がある。また、看護師が楽しさを感じられる職場であるということは働きやすい職場であると学生に印象づけた可能性もある。これらより、【看護師が生き生きと働いている姿】が影響していると考えられた。

職場の人間関係に関する先行研究では、新人看護師が就職前から職場内の人間関係形成の成否を懸念している⁹⁾ことや就職先選択において学生は職場の人間関係を重要視していることがわかっている¹⁰⁾。

本調査では、〈看護師同士の良い雰囲気〉、〈先輩後輩関係が良さそうな雰囲気〉、〈同僚のプライベートを語る姿〉といった友人関係的な仲の良さだけではなく、〈看護師間でコミュニケーションが取れている様子〉、〈看護師同士が助け合う姿〉など、仕事を遂行する上でのサポート力を表す態度にも注目して就職先を考えていることがわかった。先行研究でも、「同期のサポート」、「先輩のサポート」が人間関係の良さを表す具体的な内容として示されており¹¹⁾、職場の一員としてお互いがサポートできる関係ということも人間関係の良し悪しに含まれ学生はそのことを注視していると考えられた。これらより、【看護師間の良好な関係性が垣間見えるふるまい】が影響していると考えられた。

(3) 学生に対する看護師の態度

【学生と看護師の距離が縮まるふるまい】、【学生の看護実践を支援する姿】、【学生をエンパワメントする姿勢】が密接に影響していると考えられた。実習は病院等の学外施設で行われ、附属施設を持っていない大学は実習毎に異なる施設に行くこともある。学生は、実習の度に異なる場所で異なる看護師、患者、教員と人間関係を構築していかなければならない。学生が実習中に最もストレスと感じることは人間関係であり¹²⁾対人スキルが未熟である学生は、緊張度が高く非常にストレスフルな状況下に置かれる。実習におけるストレス感情の経時的変化の検討では、「心配、不安、恐ろしい」などの脅威の因子が実習初日に高いという結果が報告されている¹³⁾。しかし学生は実習で積極的な態度を求められるため、本来の力を発揮するためには、実習の場が安心できる環境であることが重要であると考えられる。看護師が〈学生から話しかけやすい雰囲気〉、〈学生に丁寧に対応してくれる姿〉であったことは、学生に居場所や安心感を与え、就職先としても働きやすそうと印象づけた可能性がある。実習指導者に何でも相談できる雰囲気が就職先決定に影響しているとも報告されており¹⁴⁾、学生に安心感を与える環境は、相談しやすい雰囲気であったとも推測できる。また、学生は不安や困難感を抱えながら実習に取り組んでおり、実習指導者との関係性の構築に困難感を感じているという報告¹⁵⁾や学生は無関心な態度や否定されたと感じる体験をすることで、実習に取り組む意欲が低下したり、態度が萎縮することが報告されている¹⁶⁾。〈学生のことを気にかけている様子〉や〈学生に興

味・関心を持ってかかわる姿)は、看護師側から学生に歩み寄る姿勢と考える。慣れない環境下で実習を行う学生にとって、自ら歩み寄ってくれる看護師との関わりは困難の一つではなく、頼りになるものとなり本来の力を発揮した実習となったのではないかと考える。以上から、【学生と看護師の距離が縮まるふるまい】が就職先選択の要因になったと考える。

次に、実習の達成感の体験が就職先選択に影響を与えるという報告がある¹⁷⁾。その一方で、成人看護学実習における学生の抱える困難感の調査では上位に看護援助の実践が報告され¹⁸⁾、学生は看護実践に苦慮し達成感を得難い状態であることが予測される。実習中に看護師が〈学生の実践を後押しするふるまい〉を示したことで、学生は看護実践の機会が増え、達成感や成功体験の獲得に繋がりやすかった可能性がある。また、『努力や能力の承認』、『的確で納得のいく指導』が実習における「やる気」を引き起すと報告されている¹⁹⁾。看護師が〈学生が不足していることに對し叱りつつも教えてくれる姿〉や〈学生が納得できるように指導してくれる姿〉を示すことは、学生のやる気を引きだし、看護実践力を高め、達成感の獲得にも繋がった可能性がある。以上から、【学生の看護実践を支援する姿】が就職先選択に影響したと考える。

実習指導での看護師の適切な助言・指導において、「学生がうまくやれた時には、そのことを伝えてくれていたか」ということが実習施設への就職希望に影響していた²⁰⁾という報告がある。このことから、看護が実践できたかということに留まらず実践に対する評価をしてもらえたかということも就職先選択の因子になりうると考えられた。〈学生の看護を肯定的に評価するふるまい〉では、まさしく学生の看護を評価しており就職先選択のきっかけとなったといえる。学生が就職前に直面する高い不安に、知識不足と技術経験不足が示されており²¹⁾、自信を持っていないことが考えられる。技術支援に際し、技術そのもののサポートも必要だが上手くいかなかった時のフォローがその後の成長につながると考えられ、〈落ち込んでいた時の看護師からの声かけ〉は、自信のない学生に対しての精神的な支えとして有効な支援だったと思われる。さらに、新人看護師になったときも同じような支援を得ながら成長できると期待感を持たせた可能性も考えられる。〈学生の就職相談にのる姿〉は、実習の直接的支援ではなく就職を

支援する態度であった。先行研究では、就職先決定に影響を受けた人の順位は、友人、先輩、教員、就職担当者、医療者であり、医療者がもっとも影響力が低かった²²⁾。しかし、専門職者からの助言という意味では、決定因子になった可能性は高いと推察できる。以上から、【学生をエンパワメントする姿勢】が就職先選択に影響したと考える。

(4) 新人看護師に対する看護師の態度

就職先選択理由に教育環境の充実があげられている²³⁾一方で、新人看護師が先輩看護師による支援が得られず、退職願望を抱く場合があるとも言われている²⁴⁾。これらより、教育環境においてプリセプターや先輩看護師からの支援の充実ということが職業の継続において必須な条件であるといえる。〈新人看護師に丁寧な指導を行っている姿〉や〈新人看護師の考えを汲む姿〉では、実習先の看護師が新人看護師に寄り添い丁寧に育てていることがわかり、先輩看護師からの支援が充実していることが想像できる。学生は看護師のこのような態度から、自分もこの施設であれば働けるのではないかという自信が持て、またこのような看護師のもとで働きたいと思えば就職先として意識するようになったのではないかと考える。以上から、【看護師が新人看護師に寄り添って指導している姿】が就職先を意識する要因になったと考えられた。

3. 実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度

就職先選択に影響を与えると考えられる4つの看護師の態度である、看護に対する態度、職場環境に対する看護師の態度、学生に対する態度、新人看護師に対する態度は、学生の気持ちを引きつける魅力的な態度であると考えられた。そして、そのような態度が就職選択に影響する因子であると推察された。

4. 実習施設の新人看護師確保について

実習施設の新人看護師確保において、実習中の看護に対する看護師の態度では、【学生が手本としたい看護実践をしている看護師の姿】が影響しており、実習中に患者とのコミュニケーション場面や看護師間のコミュニケーション場面を見ることが効果的であると考えられる。職場環境に対する看護師の態度では、【看護師が生き生きと働いている姿】と【看護師間の良好な関係性が垣間見えるふるまい】が影響しており、実習に関することだけでなく、やりがいや楽しさなど看護の魅力を伝えることが学生の就職

意識を高めることに繋がると思われる。また、看護師間のカンファレンスだけに留まらず些細なディスカッションや昼食時の申し送りなどスタッフで協力し合っている姿を学生に見せることも有効だと考える。学生に対する看護師の態度では、【学生と看護師の距離が縮まるふるまい】、【学生の看護実践を支援する姿】、【学生をエンパワメントする姿勢】が影響していた。看護師から学生へ歩み寄り学生が安心する実習環境を作ること、看護実践ができるよう具体的なアドバイスをすること、技術面では精神面をフォローすること、また就職支援を行うことが効果的であると考えられる。新人看護師に対する看護師の態度では、【看護師が新人看護師に寄り添って指導している姿】が影響しており、実際に看護師が新人看護師を丁寧に育てている場面を学生に見せることが有効であると思われる。

本研究の限界と今後の課題

今回、学生が臨地実習施設を就職先として意識する看護師の態度について明らかにした。しかし、就職先選択に関連する要因は多岐にわたり、実習での看護師の態度と他の因子を比較していないため影響力の程度は明らかに出来ていないため、今後の課題であると考えられる。また、各施設は新人看護師が職業を継続することを切望している。看護師の魅力的な態度を一要因として就職先を決定した学生の定着率を調査することも今後の課題であると考えられる。

結 論

1. 実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の態度として7つカテゴリーが抽出された。
2. 看護、職場環境、学生、新人看護師に対する実習中の看護師の態度が就職先選択に影響していると考えられた。実習中の看護に対する看護師の態度では【学生が手本としたい看護実践をしている看護師の姿】、職場環境に対する看護師の態度では【看護師が生き生きと働いている姿】と【看護師間の良好な関係性が垣間見えるふるまい】、学生の看護に対する看護師の態度では【学生と看護師の距離が縮まるふるまい】、【学生の看護実践を支援する姿】、【学生をエンパワメントする姿勢】、新人看護師に対する看護師の態度では【看護師が新人看護師に寄り添って指導している姿】が影響して
3. 就職先選択に影響を与えていた4つの看護師の態度は、学生にとって魅力的な態度と捉えられ就職選択に関わる因子と考えられた。
4. 実習施設の新人看護師確保の対策としては、実習中の学生に患者とのコミュニケーション場面や看護師間のコミュニケーション場面を見せること、やりがいや楽しさなど看護の魅力を伝えること、看護師間のカンファレンスだけに留まらず些細なディスカッションや昼食時の申し送りなどスタッフで協力し合っている姿を見せることが有効であると考えられた。また、看護師から学生へ歩み寄り学生が安心する環境を作ること、看護実践ができるよう具体的なアドバイスをすること、技術面では精神面をフォローすること、就職支援を行うこと、実際に看護師が新人看護師を丁寧に育てている場面を見せることが新人看護師確保の一助となるという示唆を得た。

謝 辞

本研究にご協力くださいました学生の皆様に感謝申し上げます。

文 献

- 1) 大井千鶴, 舟島なをみ, 亀岡智美. 看護基礎教育課程に在籍する学生の就職先選択に関する研究—病院に1年以上就業を継続できた看護師を対象として—. 看護教育学研究 2009;1:7-20.
- 2) 中村仁志, 丹佳子, 太田友子, 縄田真澄, 松原郁恵, 安村真由美, 山下麻衣子, 由良野嘉代子. 看護師の実習指導が就職選択に与える影響. 山口県立大学学術情報 2017;10:29-37.
- 3) 村松十和, 五十嵐慎治, 鈴木ひろ子, 中島怜子, 柴田真由子. 看護学生の就職先選択要因及び就職前に直面する不安. 豊橋創造大学紀要 2016;20:25-33.
- 4) 前掲1)
- 5) 前掲1)
- 6) 片桐麻希, 坂江千寿子. 新卒看護師の離職理由と就業継続に必要なとされる支援内容に関する文献検討. 佐久大学看護研究雑誌 2016;49-59.
- 7) 竹本由香里. 看護学生の看護系大学への進学志望動機の検討. 宮城大学看護学部紀要 2008;11(1):13-20.

- 8) 大塚眞代, 古米照恵, 藤野文代. 看護大学の進路選択に影響する情報と支援ニーズ-卒業を間近にした看護学部4年次生への調査-. ヒューマン研究学会誌 2013 ; 5(1) : 73-77.
- 9) 姫野かおり. 新人看護師の抱く不安とその経時的変化. 看護管理 1995 ; 278-280.
- 10) 小葉裕子, 奥宮暁子, 田中博子, 野中史子, 岡潤子. 看護学生の就職先選択の傾向と特徴-初年度卒業生の就職先選択に着目して-. 帝京科大学紀要 2018 ; 14 : 245-250.
- 11) 宇城令, 塚本友栄, 井上映子, 春山早苗, 水戸美津子. 本学卒業生の進路決定と就業継続に関する調査. 自治医科大学看護学ジャーナル 2009 ; 7 : 89-97.
- 12) 三浦幸枝, 高橋成子, 武田リカ, 角屋美子. 指導者と学生の人間関係から見た実習環. 第34回日本看護学会論文集 (看護管理) 2003 ; 332-334.
- 13) 堤由美子. 臨地実習におけるストレス感情の経時的変化の検討-鹿大版CSQによる-. 日本看護研究学会雑誌 1994 ; 17(4) : 27-38.
- 14) 山田美由紀, 北川純子, 水川奈美. 臨地実習体験が看護学生の就職先決に影響を及ぼす影響. 日本看護学会論文集 (看護管理) 2015 ; 414-416.
- 15) 千田寛子, 堀越政孝, 武居明美, 越井英美子, 恩幣宏美, 岡美智代, 神田清子, 二渡玉江. 成人看護学実習における看護学生の抱える困難感の分析. 群馬保険学紀要 2011 ; 32 : 15-22.
- 16) 田村美子, 白木智子, 進藤美樹. 看護学生が臨床指導から受ける否定的ケアリング体験. 看護教育 2004 ; 45(9) : 748-752.
- 17) 前掲10)
- 18) 前掲15)
- 19) 長鶴美佐子. 看護学生の臨床実習における「やる気」-「やる気」を感じた状況に関与した人物とその内容分析から-. 東海大学短期大学紀要 1996 ; 30 : 61-66.
- 20) 前掲2)
- 21) 前掲3)
- 22) 前掲11)
- 23) 本多和子, 鈴木恵. 看護学生における就職活動の傾向. 了徳大学研究紀要 2016;10:241-247.
- 24) Thomka, L .A. Graduate nurses'experiences of interactions with professional nursing staff during transition to the professional role. Journal of Continuing Education in Nursing 2001 ; 32(1) : 17-18.

受付 2018. 8. 30

採用 2019. 1. 8

